

先住民族アイヌの歴史・文化の伝承と発信

—多彩な展示と体験・交流を 観光振興につなげる—

ウポポイ(民族共生)が4月24日オープン

国立アイヌ民族博物館など6施設が完成

北海道
白老町



ウポポイ全景(イメージ図)※写真・イメージ図は文化庁、国土交通省、アイヌ民族文化財団提供

先住民族アイヌの文化復興拠点として国が北海道白老町に設置する「民族共生象徴空間」(愛称「ウポポイ」)。4月24日の開業まで2カ月余りとなり、その整備が急ピッチで進んでいる。昨年未だに中核施設の国立アイヌ民族博物館をはじめ、体験交流ホール、体験学習館、工房などの主要施設が完成。現在、展示物や資料・解説の整備、案内板の設置、体験交流プログラムの選定、リハーサルなど開業に向けた作業の最中で、間もなくエントランス棟の飲食店や物販店の入店も始まる。また、昨年9月には入場料金が決定。国や道、運営主体であるアイヌ民族文化財団らによる誘客活動が本格化し、12月16日から修学旅行の申し込み受け付けも始まった。

国立アイヌ民族博物館

先住民族アイヌを主題とし、歴史、生活など六つとした初の国立博物館のテーマに於いて、伝統的な衣類や儀礼具など貴重に内容を入れ替える。1階には、シアターやミュージアムショップ、カフェが設置される。夏期の日曜日には、展示物の解説セミナーや民芸品づくりのプログラムなども実施する。

体験学習館

修学旅行などの団体客位に分けて使うが、仕切りムックリ(口琴)の演りを外すと最大400人まで利用できる。また、鯉屋や人形劇、アイヌの儀式を見学するコースなど、体験を通じてアイヌ文化の魅力を伝える。体験室は、通称「人形」。

伝統的コタン(集落)

アイヌ民族の伝統的な民族衣装を試着するコーナーがある。また、中庭には、建築家による「チセ」を再現し、アイヌの生活の様子を再現している。また、アイヌの生活の様子を再現している。

エントランス・広場など

入場口となるエントランス棟は、円形の広場を囲む設計の建物で、その正面の湖水に面した場所には、イベントや来場者が憩いながら利用できる。また、アイヌの生活の様子を再現している。

体験交流ホール

ユネスコ無形文化財に登録されている古式舞踊や伝統楽器のムックリ(口琴)、トッコリ(五弦琴)の演奏などを、北海道の美しい風景を最新の映像技術を使って取り入れた演出も行い、アイヌの伝承を体験できる。



古式舞踊の上演



体験交流ホール



ムックリ(口琴)の製作体験



基本展示室(イメージ図)



かやぶきの家屋「チセ」



伝統的コタン(集落)での儀礼

観光振興や地域活性化に期待

ウポポイの開業は、国道であることもあり、認知度不足であることとは否めない。道が行ったネットによる認知度調査では、11月時点で、道民バス停の新設など受け入れ53.6%、道外在住者が6%と低い。これをいかに高め、誘客につなげていくかが課題だ。また、アイヌの生活の様子を再現している。

手つかずの大自然、北方領土をめぐる歴史、活火山との共生と恵み、食の生産者交流...多様なニーズに応える豊富なコンテンツで生徒一人一人の心に刻まれる。



- [自然学習]** 広大な大陸の風景の数々。もちろんウインタースポーツ、アクティビティも充実。
- [歴史学習]** 松前藩から始まり、明治の開拓期に育まれた独特の歴史と文化を知る。
- [アイヌ文化学習]** 美しく豊かな自然とともに生きてきた先住民族・アイヌの人々の文化に触れる。
- [北方領土学習]** 実際に目で見て、北方領土を正しく理解し、平和について考える。
- [防災学習]** 2000年の噴火で人的被害ゼロだった洞爺湖有珠山の災害遺構を現地見学。
- [環境学習]** 水鳥生息地を守るラムサール条約登録地などで、自然環境保全の重要性を学ぶ。
- [産業学習]** 農業・酪農業・漁業のブランド産地で、作り手の思いに触れ、体験する。

魅力体感! 北海道の教育旅行

学校をサポートする **教職員様の視察研修制度** **事前学習に活用できるアドバイザー派遣制度** をご用意! 詳しくは下記へお気軽にお問い合わせください。

TEL.011-231-5881 FAX.011-232-5064 E-mail h_nagano@visithkd.or.jp

公益社団法人 北海道観光振興機構 誘客推進本部 国内誘客部 教育旅行係 札幌市中央区北3条西7丁目1-1